

第69回大阪建築コンクール入賞発表

主催／公益社団法人大阪府建築士会 後援／大阪府

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞

大阪中之島美術館
マツオコーポレーション本社ビル

遠藤克彦
出江 潤・浅野大輔・笠井健太
渡邊由美子

特 別 賞

2025年日本国際博覧会 大屋根リング

藤本壮介・下田康晴・神吉良輔
黒川宗範・三谷勝章・加地則之
鈴木星穂

奨 励 賞

鶴橋の立ち寄り場 ヨルン
奈良の家

■渡辺節賞部門 渡辺節賞

山口陽登
金井田雄介

趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

募集範囲

2020年1月1日から2025年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物

* 建築確認申請不要物件は完了検査済証不要

* 竣工年月日は工事完了時

●大阪府知事賞部門

応募資格：設計者は①本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の建築士、または、②大阪府以外の建築士会所属の建築士
対象建築：建物の種類・規模は問わない
建築位置：(①の場合)近畿二府四県、(②の場合)大阪府内に限る

●渡辺節賞部門

応募資格：設計者は①本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の建築士、または、②大阪府以外の建築士会所属の建築士
完了検査済証発行日現在39歳以下
対象建築：建物の種類・規模は問わない
建築位置：(①の場合)近畿二府四県、(②の場合)大阪府内に限る

審査委員会

委員長 倉方俊輔 (大阪公立大学教授)

委員 浅尾 宏 (大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室長)
※50音順

田口雅一 (大阪芸術大学教授、TAPS建築構造計画事務所所長)

松本尚子 (京都芸術大学准教授)

宮原克昇 (近畿大学准教授)

審査

応募数 大阪府知事賞部門39点
渡辺節賞部門5点

審査委員会4回

●第1次審査

2月24日 書類・図面、写真によって、大阪府知事賞部門9点、渡辺節賞部門2点を選考

●第2次審査

3月2日、3月16日 第1次審査通過作品について現地審査を2日間実施

●最終審査

3月16日 第2次審査終了後に実施
大阪府知事賞部門：大阪府知事賞2点、
大阪府知事賞部門：特別賞1点、
大阪府知事賞部門：奨励賞1点、
渡辺節賞部門：渡辺節賞1点を選出

表彰式

日程 令和8年5月20日(水)

本会定時総会式典席上

会場 KKR ホテル大阪

審査経過並びに総評



審査委員長
倉方俊輔

第69回「大阪建築コンクール」には多くの応募作品が寄せられ、現地審査を通じて多彩な発見があった。審査員による議論の成果として、大阪府知事賞部門の大阪府知事賞2点、特別賞1点、奨励賞1点、ならびに渡辺節賞部門の渡辺節賞1点を、ここに発表できることを嬉しく思う。

本年度は、大阪府知事賞部門に39点、渡辺節賞部門に5点の応募があった。応募書類にもとづき第一次審査を行い、11点を第二次審査(現地審査)の対象とした。

大阪府知事賞を受賞した「大阪中之島美術館」は、2016～17年に実施された公募型設計競技において最優秀案として選定され、基本設計・実施設計・工事監理を経て、2021年6月に竣工、2022年2月に開館した。すでにその存在は大阪における新たなランドマークであり、文化的な中心地の一つとして定着したと言ってよい。今回の現地審査で改めて感じられたのは、その機能性と美学だった。「大阪中之島美術館」は、将来の周辺環境から河川氾濫による浸水リスク、要求される展示空間から

職員動線に至るまでを、環境装置とともに箱型のヴォリュームの中に合理的に収めた装置である。光の中で立ち現れる表面のテクスチャーに至るまで設計されることによって、安心して身を委ねることのできる場を実現している。機能的であることも、美しいと感じることも、作り手の表現や見る側の主観性を超えた公共性を帯びる。時代の中で生まれながら時代を超える建築といった感は、まさに伝統ある大阪建築コンクールの賞にふさわしい。

もう一つの大阪府知事賞である「マツオコーポレーション本社ビル」も、古い／新しいといった安直な感想を寄せ付けないうまいを見せる。質感あるコンクリートブロックが積み上げられた社屋は、1936

年の創業から変わらない敷地に建ちながら、使われる建造物として内外で働く人びとに馴染みつつ、毅然とした姿を現している。設計者はコンクリートブロックを、原料となる骨材やスラグを地域で調達し、消費地も生産地近郊とする地産地消の性格を持った建築素材と捉えた。そして全体を鉄筋コンクリート組積造とすることで、コンクリートの臥梁や柱を現すことなく、耐力壁を二列に並べた二重壁構造と分棟形式の採用によって、閉塞感のない空間を成立させている。コンクリートブロックの隙間から光が落ち、風が抜け、人びとが行き交う。現地で感服させられるのは、ただただコンクリートブロックが存在しているように見せるための、細やかな設計の集積である。自然や人の動きが素材を引き立て、全体は超然としている。その建築らしさが、生業を照らし出す。

今年の大阪府知事賞部門では別枠を設け、「2025年日本国際博覧会 大屋根リング」を特別賞とするのが、この賞にふさわ

しいということ審査員全員の見解は一致した。閉幕から5か月を迎えた大阪・関西万博の元会場では、パビリオンの撤去がおおむね進み、巨大な円を描く大屋根リングの全貌は、かえって会期中よりも把握しやすくなっていた。これは恒久的な建造物として計画されたものではなく、社会的な存在意義も他の応募作品とは大きく異なる。今回、現地で大屋根リングが丁寧に解体されていく様子を目の当たりにし、担当者の説明を受けることで、建設過程への理解をより深めることができた。従来に類例のない計画を、建設から解体までのプロセスも含めて、複数の設計者・施工会社等の協力によって成し遂げ、将来の建設にも寄与するものとして、ここに特別賞を贈る。

「鶴橋の立ち寄り場 ヨルン」もまた、大阪府知事賞部門の中で同列には扱いつら一方、将来性に大きく期待できることから、奨励賞を授与することとした。空き家になっていた長屋の1軒を、近隣住民が立ち

寄れる場所へコンバージョンしたもので、側面に大きな開口を穿ったことに改修の姿勢がよく現れている。この側面は、隣地が10年以上前に長屋から切り離され、更地として暫定利用されているがゆえに街に出現し続けている。そこに手をかけ、整えるというアクションが次の動向に働きかけることを、設計者は疑っていない。まちが変わりゆくその先を、審査員全員が一緒に見たいと思っている。

渡辺節賞を受賞した「奈良の家」は、爽やかな作品だった。目新しい形態も特別な素材も用いていない。しかし、訪れた住宅には、既存のものを洗練させたり縮こまったりするのは違う、形を考え、物をつくることの楽しみがあふれていた。1970年頃に宅地として開発された敷地は読み直され、敷地にあった石や植栽は生き生きとよみがえっている。若さにもかかわらず完成度が高く、その中に若々しさがあふれている。建築家・渡辺節の名を冠した賞に、これほど値する作品もそうないだろう。

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 大阪中之島美術館

設計者 遠藤克彦（株式会社遠藤克彦建築研究所）



遠藤克彦
1970年1月生まれ
1992年3月 武蔵工業大学(現・東京都市大学)工学部建築学科卒業
1995年3月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了
1995年4月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程進学

©Neoplus Sixten Inc.

1997年4月 遠藤建築研究所設立
2007年10月 株式会社遠藤克彦建築研究所に組織改編
2021年6月 国立大学法人茨城大学学術研究院応用理工学野都市システム工学領域 准教授
2022年4月 国立大学法人茨城大学学術研究院応用理工学野都市システム工学領域 教授

[主な建築作品と受賞歴]

2016年 第15回公共建築賞(豊田市自然観察の森ネイチャーセンター)優秀賞
2023年 木材活用コンクール(茨城県大子町新庁舎)第1部門賞
2023年 2022年度JIA日本建築大賞(大阪中之島美術館)
2023年 第3回日本建築士会連合会 建築作品賞(茨城県大子町新庁舎)奨励賞
2025年 第66回日建連表彰BCS賞(大阪中之島美術館)

建築位置／大阪市北区
建物用途／美術館
建築主／大阪市

施工者／銭高・大鉄・藤木特定建設工事
共同企業体
竣工年月／2021年6月

構造／S造
階数／地上5階
敷地面積／12,870.54㎡

建築面積／6,680.56㎡
延床面積／20,012.43㎡

撮影 上田 宏

〈審査講評〉 収蔵庫や展示室など閉ざされる宿命の大きな箱と複雑多岐なプログラムを内包しながら、都市に対して広く開放するという命題を、都市の文脈から着想を得た正面性のない「地形」と「四角い塊」で解く、離れ業的デザインである。立体的に構成されたパッサージュを行き来し、作者が拘りぬいたモジュールと素材が醸し出す緊張と緩和を体感すると、来るたびに新たな発見がある唯一無二の場所でありながら、普段通りの街中にいるような安心感を覚え、本作の秀逸さを感じ取れる。

(審査委員 田口雅一)

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 マツオコーポレーション本社ビル

設計者 出江 潤・浅野大輔（株式会社ボラ設計）、笠井健太（株式会社マツオコーポレーション）、渡邊由美子（桑島由美子建築設計事務所）



建築位置／大阪府茨木市
建物用途／事務所
建築主／株式会社マツオコーポレーション
施工者／株式会社デザインアシスト
竣工年月／2023年9月
構造／RM造
階数／地上3階・地下1階
敷地面積／424.15㎡
建築面積／183.64㎡
延床面積／581.82㎡

撮影 笹倉洋平

〈審査講評〉ブロック特有の質感とムラが光と合わさることで生み出されるやわらかく親しみのある内部空間が印象的であった。環境面でも有利な二重壁構造により可能となった大きな開口は立体的で豊かな空間のつながりをもたらしていた。建築の外観は存在感を放ちつつも、巧みな高低差処理や素材を統一したランドスケープによって、周辺の工場やヤードなどと調和のとれた景観を形成している。（審査委員 宮原克昇）



出江 潤
1975年3月生まれ
1999年4月 出江建築事務所
2017年2月 株式会社浅野・出江建築事務所(現・株式会社ボラ設計)設立
2022年4月 摂南大学理工学部建築学科 非常勤講師
2026年4月 日本大学理工学部海洋建築工学科 非常勤講師

〔主な建築作品と受賞歴〕

2018年 関西建築家新人賞／佐井寺のハナレ
2019年 SDレビュー入選／かぎりなく本設にちかい仮設
2025年 日本建築家協会 優秀建築選、日本空間デザイン賞銀賞／マツオコーポレーション本社ビル
2026年 日本建築学会 作品選集、日本建築家協会 環境建築賞入選／マツオコーポレーション本社ビル



浅野大輔
1971年8月生まれ
2004年4月 有限会社RAD設計
2011年12月 浅野セッケイ室開設
2017年2月 株式会社浅野・出江建築事務所(現・株式会社ボラ設計)設立

〔主な建築作品と受賞歴〕

2019年 SDレビュー入選／かぎりなく本設にちかい仮設
2025年 日本建築家協会 優秀建築選、日本空間デザイン賞銀賞／マツオコーポレーション本社ビル
2026年 日本建築学会 作品選集、日本建築家協会 環境建築賞入選／マツオコーポレーション本社ビル
2026年 日本建築家協会近畿 住宅部会賞／時代を眺める家



笠井健太
1987年4月生まれ
2011年3月 大阪教育大学教育学部卒業
2013年3月 大阪工業技術専門学校建築学部II部卒業
2012年 株式会社KIS入社
2015年 設計事務所IUE入社

2017年 株式会社浅野・出江建築事務所(現・株式会社ボラ設計)入社
2018年 株式会社マツオコーポレーション入社

〔主な建築作品と受賞歴〕

2025年 日本建築家協会 優秀建築選、日本空間デザイン賞銀賞／マツオコーポレーション本社ビル
2026年 日本建築学会 作品選集、日本建築家協会 環境建築賞入選／マツオコーポレーション本社ビル



渡邊由美子
1976年8月生まれ
1999年3月 京都工芸繊維大学工学部造形工学科卒業
2001年3月 京都工芸繊維大学工学部科学研究科造形工学

専攻博士前期課程修了
2001年4月-2006年3月 有限会社桃李舎
2009年11月- 桑島由美子建築設計事務所開設

〔主な建築作品と受賞歴〕

2005年 日本建築協会第52回青年技術者選考

■渡辺節賞部門 渡辺節賞 奈良の家

設計者 金井田雄介



金井田雄介
1991年12月生まれ
2010年3月 兵庫県立尼崎工業高等学校建築科卒業
2010年4月 日建設計入社
現在、同社設計部門 アンソシエイト

〔主な建築作品と受賞歴〕

城東区複合施設、ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター、龍谷大学 大宮キャンパス 東翼(2020年日本建築学会作品選集、2019年大阪建築コンクール大阪府知事賞、2020年賞賛金賞経済産業大臣賞、2020年日本建築家協会優秀建築選)、淀屋橋ゲートタワー

建築位置／奈良県生駒市
建物用途／戸建住宅
建築主／金井田雄介
施工者／榎谷建築生活造形室
竣工年月／2024年11月
構造／W造
階数／地上2階
敷地面積／330.76㎡
建築面積／93.85㎡
延床面積／113.16㎡
撮影 金井田雄介

〈審査講評〉50年前に開発された閑静な宅地に建つ設計者の自邸。敷地際に従前の石垣・季節を感じる木々・庭石を残し、その庭石と呼応するように建物を雁行させ、パブリックゾーンを配し開放的な空間とするとともにプライバシーを確保している。また、随所に快適性を高める細かな工夫を凝らされるとともに、維持管理にも配慮がなされ、月日を重ね味わいが出ることが想像できる。（審査委員 浅尾 宏）

■大阪府知事賞部門 特別賞 2025年日本国際博覧会 大屋根リング

設計者 藤本壮介（株式会社藤本壮介建築設計事務所）、下田康晴・神吉良輔（株式会社東畑建築事務所（東畑・梓設計共同企業体））、黒川宗範・三谷勝章（株式会社大林組）、加地則之（清水建設株式会社）、鈴木星穂（株式会社竹中工務店）



撮影 Iwan Baan



©Jan Buus

藤本壮介
1971年8月生まれ
1990年4月 東京大学工学部建築学科入学
1994年3月 東京大学工学部建築学科卒業
2000年 藤本壮介建築設計事務所設立/現在に至る



下田康晴
1982年10月生まれ
2005年3月 広島大学工学部第四類卒業
2007年3月 広島大学大学院工学研究科修了
2007年4月 株式会社東畑建築事務所入社/現在、同社設計室主管



神吉良輔
1982年2月生まれ
2001年4月 大阪大学工学部地球総合工学科入学
2005年3月 大阪大学工学部地球総合工学科建築工学科目卒業
2020年10月 株式会社東畑建築事務所入社/現在、同社設計室主管



黒川宗範
1967年5月生まれ
1992年3月 東京工業大学(現・東京科学大学)工学部建築学科卒業
1994年3月 同大学大学院理工学研究科修士課程修了
1994年4月 株式会社大林組入社/現在、同社設計本部大阪建築設計部長



三谷勝章
1977年7月生まれ
2001年3月 神戸大学建築学科卒業
2003年3月 神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻博士課程前期修了
2003年4月 株式会社大林組入社/現在、同社設計本部名古屋建築設計部長



加地則之
1967年2月生まれ
1996年4月 北海道大学理I系入学
1990年3月 北海道大学工学部建築工学科卒業
1990年4月 清水建設株式会社入社/現在、同社設計本部商業・複合施設設計部設計長



鈴木星穂
1979年12月生まれ
1999年 京都大学工学部建築学科入学
2003年 京都大学工学部建築学科卒業
2005年 同大学大学院工学研究科建築学科修士課程修了
2005年 竹中工務店入社/現在、大阪本店設計部設計第1部門設計1グループ長

建築位置/大阪市此花区
建物用途/その他(歩廊)
建築主/公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
施工者/大林組・大鉄工業・TSUCHIYA 共同企業体
清水・東急・村本・青木あすなろ共同企業体
竹中工務店・南海辰村建設・竹中土木共同企業体
竣工年月/2025年2月 構造/W造
階数/地上2階
敷地面積/88,433.86㎡ 建築面積/61,035.55㎡ 延床面積/66,900.02㎡

(審査講評) 万博という機会を活かし、それまで日本人にとって馴染みの薄かった大規模木造建築の存在を、一気に周知のものとした功績は大きい。建設から解体に至る過程までを含めた計画、大手ゼネコン各社の協力体制、大規模緑化への取り組みなど、今回得られた多くの経験が、今後の建築の発展に寄与することも期待される。(審査委員長 倉方俊輔)



(審査講評) 都市の時間性はファサード/ランドスケープにあらわれる。界壁を第2のファサードとして読み替える、ただそれだけで、隠れていた長手断面はまちに開かれ、隣地は親密な広場としてあざやかにあらわれる。上下階で異なる建具列の動きが、それを強く印象付ける。「立ち寄り場」という構想を支える広場は、駐車場の貸し借りにより生まれた民/民による時間制の共有資源だ。潜在する共有資源を顕在化させるこの建築的操作は、まちを変えていこう。地域に入る決断をした彼らによる新しいファサード/ランドスケープの誕生と、その射程の広さを高く評価したい。(審査委員 松本尚子)

■大阪府知事賞部門 奨励賞 鶴橋の立ち寄り場 ヨルン

設計者 山口陽登（株式会社YAP 一級建築士事務所）



©Kenji Togo

山口陽登
1980年8月生まれ
2003年 大阪市立大学工学部建築学科卒業
2005年 同大学大学院修士課程修了
2005年-株式会社日本設計(2013年まで)
2009年-2021年 大阪市立大学 非常勤講師
2013年-2019年 シナリ建築設計事務所 主宰
2019年- YAP.Inc CEO/Architect(法人化により社名変更)
2021年- 大阪市立大学(現 大阪公立大学)工学部建築学科 講師

[主な建築作品と受賞歴]

2021年 JIA関西建築家新人賞(一乗寺の住宅)
2021年 環境・設備デザイン賞 建築・設備統合デザイン部門 優秀賞(伊方町観光交流拠点施設 佐田岬はなはな)
2020年 グッドデザイン賞(安田株式会社 名古屋支店)
2017年 住まいの環境デザインアワード2017 入賞(神田淡路町の住宅)
2014年 SDレビュー2014 鹿島賞(CONSTANT APARTMENT)

建築位置/大阪市生野区
建物用途/立ち寄り場兼ショールーム、集会所、ギャラリー
建築主/株式会社YAP一級建築士事務所
施工者/株式会社YAP一級建築士事務所
(施工協力:豊城ウェルハウス株式会社+大阪公立大学建築デザイン研究室)

竣工年月/2025年11月
構造/W造
階数/地上2階
敷地面積/47.27㎡
建築面積/43.91㎡
延床面積/81.63㎡

撮影 KENTA HASEGAWA